

あいであ & アイデア

臼井さん家の発明品第3弾 改良型「フットリフトII」

一般社団法人 岐阜県畜産協会 原 健 治

はじめに

岐阜県大垣市の臼井節雄さんが本誌No.282で紹介した削蹄時の保定器「フットリフトI」の改良型を製作したので紹介します。

「フットリフトI」の利用者から、後肢をロープで引き上げサイドフレームに固定すると、サイドフレームとロープが邪魔をしてサイドフレーム側の蹄の作業がしにくいなど、改良点の提案があったため、「フットリフトI」のラチェットによる巻き上げ、折りたたみ式、簡単に運搬可能等の機能は保持したまま、十数回の改良を加えて、「フットリフトII」を作成しました。

主な特徴は、①削蹄の際にフレーム等が作業を邪魔することがないようにしたこと、②ET卵の採取ができるように牛の真後ろに立って作業を行える、③第4胃変位等の手術の際にも保定できるように改良したことが挙げられます。

「フットリフトI」型と「フットリフトII」型の違い

「フットリフトI」と「フットリフトII」の違いを比較してみましょう

改良点

①支柱と上部のサイドフレームの間に人が立てる空間を作り、ET卵の採取の際に牛の真後ろで獣医師が作業をできるようにしました（サイドフレームが支柱に固定されていないため）。また、削蹄の際に後肢の裏を全部見る事ができるようになりました（写真2参照）。

②サイドフレームの幅をチェーンで調節することとし、このチェーンが飛節の上あたりに当たるため、牛の後ろ蹴りを防止できます。

③支柱に灌流液、点滴液などの容器を吊すことができるように、スタンドを加えました。取り外し可能で、逆さまにして支柱に収納ができます。

④サイドフレームの支柱側の先端を5cm外に向け、後肢の上げ下ろしがスムーズになるように改良しました。

⑤サイドフレームの高さを「フットリフトI」型より5cm高くして95cmとしたことにより、第4胃変位等の手術の際の保定にも利用することが可能となりました。

⑥「フットリフトI」ではロープを通すフックを牛の大きさに合わせて3個付けましたが、「フットリフトII」では1個で対応できる構造としました。

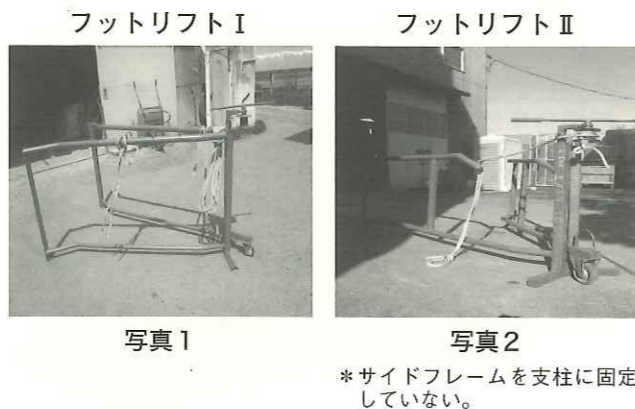


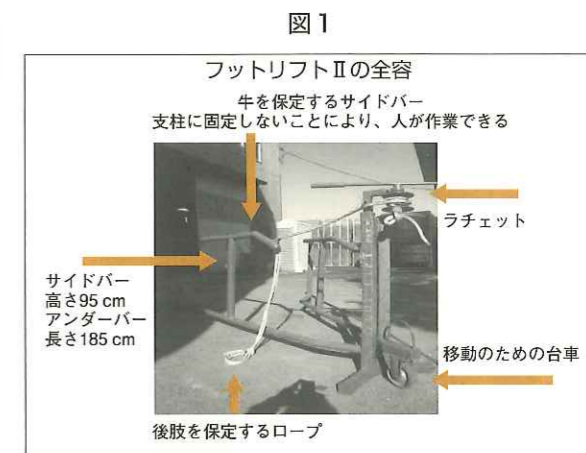
写真1

写真2

*サイドフレームを支柱に固定していない。

「フットリフトII」のスペック

- ①「フットリフトII」の全容は図1の通りです。
- ②フレームはV字型、先頭に移動のための車輪が付けてあります。
- ③サイドフレームの高さは95cm、アンダーフレームの長さは台車の先までで185cmです。
- ④左右のサイドフレームにはロープを通すフックが1つ付いています。
- ⑤点滴用スタンドを支柱に収納してあります。
- ⑥本体は折りたたむため、ストール牛舎の狭いところでも持ち運ぶことができます。



「フットリフトII」の特徴

- ①大型の保定器と異なり、運搬・移動も1人で出来ます。先端に台車を付け、移動も簡単。狭いところも搬入できます（写真3）。
- ②ストール牛舎で牛の移動をしなくても、ストールの牛の後ろに運び込めます。設置方法：写真のように設置しサイドフレームをストールに固定（写真4）
- ③サイドフレームと支柱の間に空間を作り、人が作業できるようにしました。特にET卵を採取するときには、獣医師が牛の真後ろで作業ができます。
- ④V字フレームとしたことにより、肢蹄を上げた際に牛体（腰周辺部）がフレームで支えられ、牛体が安定します。
- ⑤後肢を固定すると、削蹄師はフレームやロープを気にすることなく作業ができます。蹄の裏を削り落とす際に、立て膝で作業ができる高さに調整してあります（写真3、4参照）。
- ⑥一番の特徴は安全に一連の作業を行えることです。

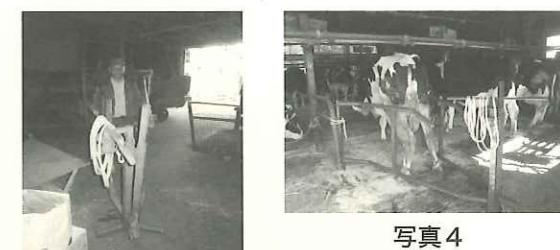


写真3

写真4

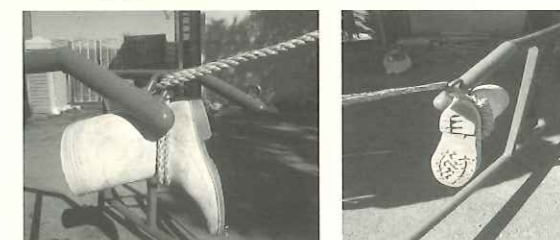


写真5

写真6

長靴を保定しましたが、蹄の裏が全部確認できます。

利用手順

詳しくは「ウスイプロジェクト」のホームページで動画を開示しておりますので、一度確認してみてください。ホームページアドレス：<http://usuiproject.com/product.html>

問い合わせ先

製品の詳しい説明、情報についてはウスイプロジェクト（住所 大垣市釜箇町1丁目556番地 電話 0584-89-5528）までお問い合わせください。

あいであ & アイデア